



八雲寮・デイ雲 合同納涼祭で盆踊りの様子

近年、多くの企業や福祉施設、自治体などが「人材の確保・育成・定着」に頭を悩ませています。少子高齢化に伴う労働人口減少、働き方の多様化、価値観の変化など、雇用環境は急速に変化しており、従来の手法だけでは優秀な人材を確保し続けることが難しくなっています。そのため、戦力的かつ柔軟な取り組みが求められています。

生き残りを懸けた経営戦略

八雲寮施設長 志賀常盤



発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部



原点回帰とは

八雲寮統括 白倉和裕

私たちが携わる福祉の仕事は施設で暮らす方々の将来を考えその人の人生を導くことに最も繋がる仕事だと思います。

しかし、日々の業務に追われ何時の間にか、理念の本質を見失ってしまう事が時々あります。

支援者は常に「何のためにこの仕事をしているのか」「この先、ご本人と家族は何を望んでいるのか」を自問し、悩みながら支援に従事する必要があります。最近では、多方面の異業種から転職してくるスタッフが増加する中、私たち中堅職員は、ほかにわ共和国の使命や理念、そして支援の成果が評価として少しでも見受けられた時の喜びや楽しさを上手く伝えていく役割があると捉えています。

しかしながら、上手く伝えることができないジレンマと日々葛藤の毎日です。元号が変わった令和の働き方とは何か。「正直難しいな」と感じています。

これから先の為にも「原点回帰」を伝え続けていきたいと思っています。

まず、人材の「確保」においては、求人票の工夫や採用チャネルの多様化が重要です。従来のハローワークや求人媒体だけではなく、SNSや地域ネットワーク、大学・専門学校との連携など、幅広い接点を持つことが必要です。また、応募者にとって魅力的な職場であることを積極的に発信し、「この職場で働いてみたい」と思わせる工夫が欠かせません。職場見学やインターン制度、職員の声を取り入れた採用ページの整備など、リアルな情報発信が鍵になります。

次に、人材の「育成」では、入職後の教育体制やキャリアパス支援が大きなポイントです。単なるマニュアル教育に留まらず、OJTとOFF-JTをバランスよく取り入れ、段階的なスキルアップを支援する体制が求められます。さらに、リーダー育成や資格取得支援などのキャリアパスを示すことで、職員の成長意欲を引き出すことが出来ます。「育成」は単なるスキル取得にとどまらず、「人としての成長」を支える仕組みとして位置づけることが大切です。

そして最も重要なのが、人材の「定着」です。せっかく採用・育成した人材も、職場に魅力がなければ離職してしまいます。働きやすい職場環境の整備、上司や同僚との良好な人間関係、適切な評価制度、ワークライフバランスへの配慮など、多方面にわたる支援が不可欠です。特に若手職員の早期離職を防ぐためには、定期的な面談やフィードバック、悩みや課題を気軽に相談できる体制づくりが効果的です。総じて、人材確保・育成・定着は単発的な施策ではなく、全体として連動した「人材戦略」として設計することが求められます。一人ひとりの職員が「ここで働いていて良かった」と感じられる職場づくりこそが、長期的な組織の安定と発展に繋がると考えます。

ほかにわない OnlyOne の言葉

「モチベーション」

言葉の意味どおり、やる気、意欲を高めて仕事をするように心掛けていきたいと思えます。失敗すると落ち込む事があります。モチベーションを上げていけるように！

(デイ雲柿の木支援員 加藤恵子)

「雲外蒼天」

雲の上には青空が広がっているように困難に遭遇しても諦めなければやがて良い結果に繋がるという意味。どんなに辛い状況下でも先が見えない時は、この言葉を思い出しいつか良い方向に未来は変わると信じて仕事に取り組んでいきたい。

(悠炉里世話人 綾部佐吉)

「スマイル」

大きなイベント事が終わっても、次に向けての仕事が沢山あると思えます。「スマイル」を忘れず、仕事を頑張りたいとこの言葉にしました。(デイ雲作業療法士 浮田真帆)

ほかにわない
ONLY ONE
のモチベーション

ほかにわない
Only One
の雲外蒼天
綾部佐吉

ほかにわない
Only One
のスマイル

「モチベーション」「雲外蒼天」「スマイル」

口加高校 三A会 昭和38年卒



長崎新聞 令和7年7月11日朝刊「再会に乾杯」より

1963年56名が本校校長の饒の言葉「邂逅と創造」を心に刻み、厳しい受験戦争に挑み、“島鉄加津佐駅に1月3日、2千円持って集まろう”を合言葉にそれぞれの道を目指した。クラス会を節目節目で行い、話題が有ったら集まって氣勢をあげ、友情の絆を強固にしたが、14名は天国、病院とリハビリ7-8名、自宅で巣籠り9-10名、元気澆刺は25-6名程度である。

今回は、24名が博多で一次会、二次会是对馬の脳梗塞でリハビリ中の山口君を11名が訪問。交わせない会話にお互いの気持ちを核にした感動の一時だった。お互い二年後の再会を約束して別れた。 学生時代に誓い合った「友は無形の財産」と友情は不滅である事を確認した。

マーライオンをバックに



思い出のアルバムを紐解くと懐かしい記憶にタイムスリップする。上の写真は、施設士会の九州ブロックで第一回は韓国、第二回は台湾、第三回はマレーシアだったが、旅の途中でシンガポールに一寸立ち寄らせてもらった。

名古屋と広島の方も参加していただいたが、有意義だった。その後も交流が継続しており、若い会員には魅力があると思う。

今年は、九州ブロックの長崎大会が開催され、慶賀に思う。県単位で担当となるのは大変ではあるが、その大変さの汗の中にお互いの絆を感じるの「達成観」として会員が共有する財産になる。

十五年前の施設士研修

本のクリスチャン教会に関しては、良いことだけが書簡に書かれていたもので、自分は日本教会を『初代教会』(ローマ帝国の国教となる以前のクリスト教会)のようなものと考え、当地に来れば大聖堂を持つことができるし、多くの現地人(日本人)を司祭叙階し、ほかにいろいろなことができるものと考えていたが実際に来て見て、今後長年にわたってそんなことは不可能であることが分かった」と書いている。ヴァリニャーノが提唱し開催した一五九〇年九月一日の口之津宣教師協議会の準備会は重要な会議である。新たなイエズス会の布教体制(適応主義)は、シヨラン島での決議を受けた予備会議であり、巡察師ヴァリニャーノにとっては、布教伝播の上で重要な意味を持っている口之津港のドラマの一つである。

しかし、これまで口之津港に関する歴史検証において、第一回宣教師会議準備会が七月末と九月一日に開催されているようであるが、これらの実態に関して報告書が未整備のようである。今後の課題として取り組みたい。幸運にも、港の記

念館が五周年を迎えたことで、「アルメイダ生誕五百年」をキーワードに口之津に纏わる研究が推進されるような土壌が醸成されつつあるようだ。その一つが、十一月一日開催のシンポジウムであろう。中でも、口之津とアルメイダは、布教を含めた活動に港探索などの南蛮文化の交流に尽力をし



馬場氏、松本氏、 リリーさん、志賀 松本館長

「シグニス映画フェスティバル」で、乃木リリーさんが、「ルイス・デ・アルメイダ 500年目の巡礼」でカトリック広報担当司教賞を受賞された。「アルメイダ」の映画制作に大きな一歩になった。

福祉文化史で見る

口之津港三つのドラマ

肥前口之津は、中世期にわが国と西欧を結ぶ交易港の存在があった。日本史の編纂者フロイスは、アルメイダから伝え聞いた話として、「日本にある中で最も爽快にして位置も最良の町の一つである。入江には百隻近い大船があり、それらはほとんどがガレイ船である。殿が教会のため我らに与えた城は日本で見た中でも最良の地所の一つであり、上部は木材で囲い、下部は地所全体が海が取り巻いており、町の中央に位置している。すなわち、クリスチャンがあちこちから集まるところにあつて、同所には何人の家もない。またそこから町全体と港の入口が見渡

せる。教会用の木材は、真の友人にして、初期の善良なるクリスト教徒のように信仰のことに基だ熱心なドンジアンのおかげにしている。」と叙述している。

この認識は、口之津の港を検証する時に重要なキーワードになっている。つまり、港の環境であるが、教会用の木材が確保されていることは、イエズス会が条件にしていた事象と一致する。

その一つが、肥前におけるナタラ(降誕祭)の開催である。イエズス会が布教のバロメーターにしていたのが、クリスマスの重視である。それは、民衆の関心を惹く行事であり、領内が安心安全の確保が可能であるのかを問う試金石である。

次に、港に纏わるドラマとして、イエズス会仮事務所の開設である。イエズス会の教会としての機能と布教活動の拠点としての港の存在である。

キリスト教布教の事務所の移転先は重要な意味を持ち、口之津から長崎へ移転された。つまり、口之津は、南蛮文化の伝播中継地である。そうした視点から見れば、ヴァリニャーノの一五七九年十二月十四日付口之津発信の書簡は、「日



待ちに待った面会日

夏真っ盛りとなり、猛暑が続く七月二十日に面会日が行われた。家族の方が乗車してくるタクシーが到着するのを落ち着かない様子で何時間も前から玄関で待っている方もいる。家族の方が到着すると、居室で差し入れのコーヒーやお菓子を食べ、満面の笑みで話す姿が見られた。その反面、嬉しい気持ちもあるが、久しぶりの家族に照れて無口になったりする方もいる。昼食の時間になると、食堂で家族の方と一緒にテーブルに座り、食事を楽しむ場面が見られた。食事中、いつも静かに食事をされる方が楽しく会話をしながら箸を進めているのが印象的であった。

面会時間も終わり、別れを惜しんで、家族が乗っているタクシーを見えなくなるまで見送る方・居室で別れを告げる方などいろいろな様子が見られた。今回の面会日では、兄弟の方が初めて施設へ訪れて来て下さるケースがあった。その理由としては「他の兄弟に何かあったらと思って施設へ顔を出してみようと思って。」との事であった。

私自身にも、親・兄弟・子供という。家族と過ごす時間は楽しいものです。家族の方々に關しましては、決められた面会日にこだわらず、日程調整できますのでお気軽にご連絡下さい。(要平)

障害者支援施設 八雲寮広報部



今後の行事
9月
お月見会

10月
ほかにわ
秋季大運動会



リハビリ班紹介

4月より新たにリハビリ班の作業科が誕生しました。年々高齢化が進み、リハビリが必要な方が増えています。デイ雲の作業療法士よりレクチャーを受け、個々に合わせたリハビリを実施しています。リハビリ内容としてはペグ差し、歩行訓練、リカンベントバイクなど身体機能の改善に取り組んでいます。初めの頃はリハビリに集中することができませんでした。今では自ら率先してリハビリに取り組む姿が見られています。リハビリが楽しいと思っただけのようにこれから励んでいきます。(松本)



がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・?



林田武彦さん

毎日、紐通しの作業を頑張っています。ごはんがいつも楽しみです。これからも元気に過ごします。

じゃがいも雑感!



私が、福祉に入職した当時よりの職員が今年お亡くなりになり、初盆を迎える。教職を退職され、経験を活かして、児童デイサービスを担当された。夏休みには、子供たちと一緒に夏休みの作品を制作したり、アイデアも豊富だった。作業班では経験と器用さで色んな作品を制作し、額縁やコンテナガーデン・壁かざりなど数知れない。花の苗をたくさん持つてきて、事業所の周り、畑にたくさん植えてもらったこともある。趣味でもあった陶芸では利用者の介助皿やマグカップを焼いて食事支援に役立てられた。昨年はびっくり箱のムツゴロウを焼いてもらったのが最後の作品だっただろうか。

二十余年の歳月で制作された作品の数々、もう一緒に作業する事も、かなわなくなった。数々の作品を思い出しながら、心安らかにと手を合わせる。(主任 山本智恵美)



ショッピングの旅!

8月初旬、大村市へ買い物・バイキングに出掛けました。施設外での活動は利用者の方にとって楽しみの一つであり、社会との繋がりを保つ貴重な機会です。昼食はバイキングということで普段とは違う雰囲気を味わい、お腹も心も満たされました。買い物ではそれぞれ欲しい物を買うことができ、充実した1日でした。利用者の方より「また外出したい」、「好きな物を買ったり食べたりして楽しかった」などの声も聞かれ、職員も嬉しい気持ちになりました。今後も利用者の方が満足できる活動を取り入れていきたいと思ひます。(下田)



バイキングの様子

七月末、長崎市にある市民の森へキャンプに出掛けました。夕食と朝食の買い物をみんなで行い、目的地到着後はみんなが楽しみにしていたバーベキューの準備を行いました。かまどで焼きそばと焼肉を作り、いつもの食事とは違い、おかわりをされる方もいてお腹いっぱいになった様子。夜にはみんな花火をしたりと楽しく過ごした様子。夜にはみんな花火をしたりと楽しく過ごした様子。夜にはみんな花火をしたりと楽しく過ごした様子。

夏と言えば...



今回は饅頭作りなどの体験を取り入れることができ、とても充実したキャンプとなりました。(本多)



今年度からメンバー構成も新たに がまだ大会では3曲を披露

ウキウキ気分でショッピング

今年度の小グループ活動は、買い物外出から始まりました。参加を希望された皆さんには購入したい物品リストを作成していただき、その内容を見て職員が行先を検討しました。

普段は近所での買い物が多く、本人が求めるものが販売していないこともあります。今回、諫早市内の洋服店やリサイクルショップ、100均などに足を運び、自分で商品を手に取り購入することで達成感や笑顔も見られました。

「また今度も行きたいね」という意見も聞かれたので、私達職員としてもとても喜びを感じられる活動となりました。

(高松)



千代垣荘に住み、デイでは手織り班で作業をしています。好きな歌手は坂本九さん、好きなテレビ番組はサザエさんです。

上村さんは平成十八年より利用されており、いつも笑顔で周りのみんなを和ませてくれます。



上村信一さんの紹介です



また、今年の国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が「ながさきピース文化祭」として本県で開催され、その中の交流事業として行われる障害者芸術祭南島原大会に出演することが決定しています。三年前にも、同じステージで出演をしており、再度

障害者芸術祭に向けて

デイ雲で働きはじめて五年目になりました。文化活動は、入職時からヘルマンハープを担当しています。六月のがまだす大会出演は、皆少し緊張していたと感じましたが、一致団結して上手に出来たと思います。九月には障害者芸術祭が控えています。さらに上達を目指しながら楽しく練習に励んでいきます。(小笹)

バーベキューといえど、この夏の猛暑の中、野外での食事は熱中症のリスクも高くなっています。もう為、職員が肉を焼いたり、焼きそばを作り、利用者の皆さんには涼しい室内で夏の「食」を楽しんでもらいました。入浴の後にはおやつのアイスまで！笑顔が語る、おなかの満足!!皆さんの笑顔があれば、職員の軽い熱中症も吹き飛びます!また来年をお楽しみに。(荒木)

オムライス作りに挑戦!

6月21日、放課後等デイの児童で手作り昼食を実施しました。皆の希望で決めたメニューはオムライスです。材料の購入、炊飯、切り込み、卵の焼き作業を職員と協力しながら行いました。食材を切り、フライパンで炒める姿はいつもよりも真剣な表情でした。完成すると美味しそうに頬張る姿がたくさん見られ、とても嬉しかったです。食後はカラオケで盛り上がりしました。

まだ暑い日が続きますが、夏休みの放デイはプール遊び、一日外出と楽しいイベントばかりです。水分補給を怠らず今年の夏を楽しく過ごしたいと思います。(小林)



雲と虹

「感動とは、感情が動くということ。期待されているものをそのまま提供しても人は感動してくれない。感動が喜びとなり、人を変える。」これは私が以前の会社に勤めていた時に頂いた言葉です。感動は、感情が動くとき初めて人は感動し、喜び、そして人を変える力を持っています。想定通りのものを提示しても、そこに感情は発生しません。驚きや、感謝、安堵が生じた時に感情が発生するのだと考えます。求められることをやり遂げることはもちろんのことですが、そこに相手を思いやるプラスαができるよう、自身を高めていきたいと思っています。

副主任 濱田 由佳

行事予定9・10月

- ・手作り昼食
- ・小グループ活動
- ・ハロウィン

※状況により延期・中止になる場合があります。



8月号 No.218



おなかいっぱい! BBQ

悠炉里

地域連携推進会議開催

井村一美

悠炉里は宿泊系共同生活援助事業所です。令和七年度から地域連携推進会議が義務化されましたが七月十二日にその会議を開催しました。参加者は、地域住民四名、利用者一名、施設長他職員四名の計九名で行いました。

悠炉里は、地域の中で生活を始めた設立時、身体・精神・知的三障害の方が同じ建物で暮らすという住環境の特徴など考慮して住み分けを行ったとの事や、今生活している中で、利用者の高齢化の増加に対する介護的支援の工夫を現状と概要を説明してもらい、町中にある戸建てのホームを見学しました。実際居住されている利用者の方からの話も聞くことができました。

利用者から「楽しく、生活が出来ています。」と話され、参加者の方からは、安堵の声が聞かれました。参加者の意見として、「災害時の対応は？」と問われ、昨年実際災害時を想定し訓練を行ったことの話をしました。

私達は地域の方への理解が少なくないと感じていたこともあり、今回の会議で施設見学と意見交換ができたことは、地域生活を行うことに理解を深められたと自負しています。

人命尊重を第一に安心した生活ができるよう支援をしています。たいと思います。

(会議の様子)



共同生活援助事業所

(介護サービス包括型)

悠炉里広報誌

8月号

一泊二日福岡の旅



初日は、ららぽーと福岡でそれぞれ買い物や映画を楽しみ、昼食はボリューム満点の天丼・夕食は焼き肉の食べ放題でした。一時間後ぐらいにはダウン状態になり、ホテルも温泉付きでみんな大満足♪。



次の日は、チロルチョコの製造元を訪ね、普段お店に売っていない大量に入っているチョコを購入出来て、甘い物好きな自分は大満足でした。昼食には「せっかく皆で福岡に来たのだから美味しいラーメンを食べたい」と話していたので、行列の出来るラーメン店で食べました。

その後、福岡よしもとで漫才やコントを楽しみました。いつもテレビで見ている漫才師の方々を目の前で見ると、本当に面白くお腹を抱えて笑いました。日常ではなかなか味わえない位、本当に楽しい二日間でした。今後も楽しい旅行に行けるように仕事に私生活と頑張りたいです。(参加者 春本 幸成)

島鉄CafeTrainでゴー!



6月8日に小G活動として、日帰り島鉄カフェトレインの旅を女性利用者5名と引率職員3名で行いました。諫早駅から島原駅までの列車移動でしたが、普段乗る事が少ない列車で地元のグルメ(お弁当)やスイーツを楽しみ、途中「日本一海に近い駅」と言われる大三東駅に途中下車し、幸色の黄色いハンカチをバックにトレインアテンダントさんと一緒に記念撮影をして、ティータイムを楽しみました。



足が不自由な利用者にも安心安全な旅行を支援できたと思います。

(笹田美恵子)

ゴキブリさようなら、バルサン実施

本格的な夏が訪れ、悠炉里では毎年恒例のバルサンを全ホーム実施しました。湧雲荘も朝から電化製品に新聞紙を覆いかぶせたり、準備に大忙し。みんな慣れたものでバルサンの設置からスタートするまでスムーズに出来ました。バルサンをしている間はみんな外出。これも楽しみの1つです。帰って来からは居室に食堂、廊下と全てに掃除機をかけ、後片づけをしてホームが綺麗になりました。これからも気持ちの良い状態で過ごしましょう。

(竹市 香織)



土用丑の日に「うなぎ」を食べるのはなぜ?



日本では昔から、夏土用の時期は夏バテしやすい事もあり「丑の日」に身体に良い「う」のつく食べ物を食べる「食い養生」の習慣がありました。江戸時代、平賀源内の提案で、夏に売り上げが少なかったうなぎ屋さんに「本日、土用丑の日」という看板を出させたところ大繁盛に。他のうなぎ屋も真似するようになった事で「土用丑の日」にうなぎを食べる習慣が定着したという事です。夏の土用は暑さで体調を崩しやすい時期である為。滋養強壮のためにうなぎを食べる習慣が根付いたとされています。うなぎはビタミンA、B群、D、ミネラル、コラーゲン、DHA、EPAなどが豊富であり、夏バテ防止や疲労回復に効果があるとされています。暑い夏を乗り切るための知恵として様々な風習が、今も根強く残っています。

(栄養士 安藤 友美)



ゆるりと



今後の予定

- ・ゆるり夏祭り
(共催自治会)
- ・北海道2泊3日
- ・熊本2泊3日

四月より悠炉里へ異動し、気が付けば梅雨が終わり夏となりました。昨年度から小G活動も県外で実施出来るようになり、利用者さんの楽しそうな笑顔をたくさん見るようになりました。

私自身も鹿児島旅行を計画し、引率者として参加予定でしたが、ここ最近地震の頻発から、安心安全を考慮し変更を決めました。利用者さんにも地震には敏感で、延期の件について了承してくれました。逆に旅行をどれ位楽しみにしていたかも知ることができました。

改めて利用者さんの気持ちに寄り添って、思い出の一ページが作れるよう頑張りたいと思いました。

また、利用者さんが「思うこと」を話してくれる今の時間を大切に、今後も楽しく、安心安全な生活できる環境づくりに努めて行きます。

(副主任 井上 翼)

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 8月号

楽しみにしていた時間

八月六日、作業班別に分かれて食事に出掛けました。事前に何を食べたいか、何処へ行きたいかを利用者の方主体に決めてもらい計画をたてたので、当日になるのを、皆さん楽しみにされていました。

被服班は雲仙市小浜町、園芸班は島原市、紙加工班は雲仙市森山町へ出発。いつもと違う場所、頂く食事はとても美味しく、自然と会話も弾みました。帰りのドライブでは「美味しかったね」「今度は何を食べよう」と聞こえてくる一方、満腹で眠りにについている方も・・・。

利用者の方も、職員もリフレッシュできて、これからの作業意欲の向上に繋がるような時間を過ごせました。明日からまた頑張っていきましょう。

(副主任 林田まゆみ)



被服班は、唐揚げが人気



三種の味が楽しめるアイス



唐比町のハス



園芸班は、唐揚げ定食が人気



紙加工班は、和牛丼が人気



HAPPY BIRTHDAY

誕生日会は、毎月15日となっています。月初めになると「今月は誕生日だよ」とアピールが始まります。7月の誕生者は、寺田松枝さん、中村洋さん、松田康宏さんの3名。誕生食の献立は、ピラフ、とんかつ、パスタ、サラダ、コンソメスープ、ミニケーキです。

仲間の「おめでとう」の声と共に、施設からのプレゼントを渡すと笑顔で受け取られ、全員で美味しい給食を頂きました。

誕生日を迎えられた、3名の方おめでとうございます。

(天本)



食事前にプレゼント



大好きなケーキ♪



ありがとうございます



洗濯干しの様子

ましたが、これからは職員として責任を持ち頑張っていきます。」と、力強く答えて下さいました。これからの、ご活躍を願っています。

(職員一同)

ワークネットやはた 今日のこの人



早熊 純平さん

4月から、紙加工班で作業を頑張られている早熊さんの紹介です。

Q 休日は、何をしてお過ごししていますか？

「音楽を聴いたり、ビーズ製作をしています」

Q 好きな食べ物は何かですか？

「ハンバーグ、ステーキ、ゼリーが大好物です」

Q 今、一番楽しみにしている事は何かですか？

「小グループ活動で、愛知県へ旅行に行くことです」

● 目標に向けて、頑張っている早熊さん。上手いかわい事もありますが、目標達成に向けて職員もサポートしていきます。これからも、元気にワークに通ってくださいね。

散歩道

最近、地震が全国各地で頻発しています。災害はいつ起こるかわかりません。

私たちの施設では、利用者さんの命と安全を守る責任があります。そのためにも、職員同士の声かけや日頃の連携、避難経路の確認、備蓄の見直しなど、日常の中の「備え」が何より大切です。

不安を抱えやすい方もいるからこそ、私たちが冷静に動けるよう準備しておくことが、安全につながります。

今一度、防災について見直す機会にしたいです。

(事務次長 酒井亮裕)

改善活動は共通語

北九州市で行われた「QCサークル九州支部チャンピオン大会」へ参加してきました!! 各地区選抜のサークルが改善活動を発表。チャンピオン大会だけあってどのサークルも自信にあふれた発表! 私達は、「働く仲間の不安をなくし、よりハッピーなサービスを提供しよう」をテーマに取り組んだ2年の歩みを発表しました。



ポスターディスカッション時の様子

そして、出来ないと思っていたスイカが一つでき、8月上旬に食べ頃を迎える知り、みなさん楽しみに毎日成長を見守っています。



スイカ



暑い夏を手作りの風鈴で、少しでも涼しくするぞー!

検査は三日前から前処置薬の服用を開始し、当日は三六〇ccの下剤と一八〇ccの水を三〇分で飲み干し、便の状態に応じてこれを最も高六回繰り返し、三〇分以上の下剤と水を飲みました。下剤の殆どは、検査後にお尻ではなく、口から出

てしまう事になるので、全く受けつけませんでした。空気で腸を膨らませては、内視鏡を盲腸付近まで進める痛みで体は強ばり、検査後着替える事も出来ず、ベッドで休む始末。

結果、私の大腸は美しく、異常なしの診断でしたが、健康状態の確認に不可欠の検査と酷暑は間違いなく、体力を奪いました。



←デイ雲柿の木Instagram



売店(これ波これ和)情報が充実!

夏といえスイカ

今年度の新年研修で食育について考え、利用者の方と一緒に各ホームで野菜を自分たちで育てて、収穫をして楽しむことになりました。城雲荘は利用者からの意見で、スイカ・なす・ピーマン・スナックエンドウを作ることになりました。

まずは夏野菜のスイカ・なす・ピーマンを育てています。利用者の方が交代で水やりをして、できたら収穫して楽しんでいます。

今年も年に一度実施している、放課後等デイサービス評価を行いました。保護者の方と職員を対象に、サービスについて率直に評価をしていただき、今後の課題と改善点を見つけ、サービスの向上を目指します。改めて保護者の方に意見を聞く大切な機会です。

評価をしていただく度に、「ここが足りなかったのか」「ああこう思われていたのか」と気づかされる

一九六三年生まれの私の夏休みは、本原から松山(長崎市)まで県営バスで、市民プールに通うのが日課で、日焼けした皮膚がポロポロと剥がれ落ちるのを面白がって

どうする? 暑さと健診結果の桃紙

デイ雲柿の木 所長 原口由紀子



石川智広画伯作『かまきり』

この暑さはヤバい! ヤバすぎる!!

夏場の外作業は、地獄です。とにかく暑い。暑い。暑い。それに尽きます。飲んでも飲んでも水分は汗で流れてしまい、たくさん飲んだわりには、



トイレの回数は少ない現状です。

しかし、だからといって外の作業を完全に止めるわけにはいかないの

(佐藤)

言の葉

9月の行事

- 4日 市民プール※
- 9日 災害食体験※ 避難訓練

※印は参加費あり



特集

意見を交わす大切さ

ワークネットやはた

管理者 松尾 喜一

ワークネットやはた保護者会総会が、七月二十六日に開催されました。当日はご多忙の中、保護者の皆さまにご参加いただき、御礼申し上げます。

昨今の物価高騰により、令和七年度より食事代を変更させていただきました。楽しみでもある食事は満足できる内容で提供してほしいと意見もあり自給自足できる食事は事業所でも作りながら、提供していきたいと思っています。

先日、ほかにわ共和国後援会の役

ほかにわ共和国の動き

9月中頃

理事会

10月中頃

運動会

11月8日

神社祭

総会の様子



その人と人こそ、職員だけではなく保護者の皆さま、地域の皆さま、「八雲寮」にかかわる全ての皆さまであつたと思われます。今、福祉業界でも人材不足などの理由からAI技術の活用がすすめられています。しかし、その目的が業務を効率化させるだけにとどまらず、効率化の先にある利用者の方々のために「人と人が懸命に知恵を出しあう」時間の確保こそが、目的であることを忘れずに進んでいきたいと思っています。

あなたと私のエピソード

宿泊型自立訓練事業所(通勤寮)やはた塾は、平成25年度末で閉所されましたが、主に一般就労をしながら地域生活を目指す方の居住の場でした。私は、24年春に福祉業界未経験でやはた塾の生活支援員がそのスタートとなりました。

早朝から食事当番をした後、バスや自転車で就労先に向かい、夕方遅く帰った後も食事の準備や洗濯をこなし、苦戦しつつも小遣い帳や日誌をつける利用者の方の姿に最初は驚かされたものです。

閉所から10年以上経ち、まだ同じ就労先で働いている方は数名となりました。私も事務職兼務になり、利用者の方と直接接する機会は減りましたが、当時の入所者の内の1人の方は、現在所属する事業所の同僚でもあります。毎日一緒に業務を行いながら、健康を第一にこれからも元気に働いて欲しいと思っています。(デイ雲 小山泰彦)



当時のやはた塾のメンバーと職員

食育考

食材費の高騰で頭を抱えていると「万能葱は、根元を残しておいて再生栽培してみたら？」と厨房の方が育てて下さいました。現場の方の声から始まり園芸班や、職員の協力でミニトマト、オクラ、胡瓜、茄子等、家庭菜園が実現できています。

食への関心を高め、感謝の気持ちも育み、アイデアを出しあい、協力して下さる温かい雰囲気「今後も頑張ろう」と私の活力になっています。

(栄養士 久保友美)



オクラと茄子を収穫中

MYROOM・MYコレクション

トルコに再び行きました。二千年以上前の歴史遺産と沢山の宮殿に圧倒され、文化と財宝に驚いて二度目の渡航になりました。

スイカは一個百円ですが、お水は二百円位でした。水平線まで、農作物が延々と続いており野菜は美味しいし、男性は親切だし、気候もカラリとしているし、博物館では現地の中学生に大きな声で「ありがとう日本」と声をかけられました。

心地よく過ごせて三度目のトルコもありそうです。

(悠里里 谷口富美代)



令和6年度 決算報告

【社会福祉法人ほかにわ共和国】



【資金収支計算書の要旨】

科目	金額(千円)
事業活動収入	571,273
事業活動支出	569,291
事業活動資金収支差額	1,982
施設整備等収入	1,695
施設整備等支出	39,459
施設整備等資金収支差額	△ 37,764
その他の活動収入	17,563
その他の活動支出	0
その他の活動資金収支差額	17,563
予備費支出	0
当期資金収支差額合計	△ 18,219
前期末支払資金残高	597,906
当期末支払資金残高	579,687

【事業活動計算書の要旨】

科目	金額(千円)
サービス活動収益	563,005
サービス活動費用	590,699
サービス活動増減差額	△ 27,694
サービス活動外収益	8,268
サービス活動外費用	8,759
サービス活動外増減差額	△ 491
経常増減差額	△ 28,185
特別収益	5,524
特別費用	1,670
特別増減差額	3,854
当期活動増減差額	△ 24,331
前期繰越活動増減差額	934,960
当期末繰越活動増減差額	910,629
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	17,500
その他の積立金積立額	0
次期繰越活動増減差額	928,129

【貸借対照表の要旨】

科目	金額(千円)
資産の部	
流動資産	630,870
固定資産	624,221
(基本財産)	449,854
(その他の固定資産)	174,367
資産の部合計	1,255,091
負債の部	
流動負債	76,554
固定負債	44,795
負債の部合計	121,349
純資産の部	
基本金	5,559
国庫補助金等特別積立	97,554
その他の積立金	102,500
次期繰越活動増減差額	928,129
純資産の部合計	1,133,742
負債及び純資産の部合計	1,255,091